

<2008—2010 年度・浅野ゼミの教育 GP 活動報告>

メディア学科・浅野健一ゼミでは、2008 年度から 2010 年度の 2 年半にわたり、「質の高い大学教育推進プログラム」（以下、教育 GP）を利用して、3・4 回生が中心となり「創造教育」に取り組んできた。2009 年 1 月から 2010 年 10 月の間に以下の活動を行い、成果をあげることができた。

<主な活動内容>

① 立教大学社会学部・服部孝章ゼミとの討論会（2009 年 1 月 19 日）

1 月 19 日、立教大学池袋キャンパスで、浅野健一ゼミは、立教大学社会学部・服部孝章ゼミとの討論会を行った。最初に浅野ゼミが、「表現（報道）の自由とメディア規制」のテーマで、報道倫理綱領の制定と報道評議会設立に向けた「日本版メディア責任制度試案」に関する発表を行い、続いて、服部ゼミの学生が、「力士リンチ事件報道」をテーマに報告を行った。その後、「学生が逮捕された際に大学名や個人名は必要か」など報道の問題点について両ゼミで討論を行った。

お互いに価値観の違う相手と討論したことにより、自分たちの何が足りないかについて明確になった。匿名報道主義を支持する浅野ゼミにとって、実名報道主義を主張する服部ゼミに対し、説得力のある反論を十分に展開することができなかったという反省から、さらに勉強を続けることになった。

② 早稲田大学法学部・水島朝穂ゼミ、朝鮮大学校政治経済学部・宋修日（ソン・スイル）ゼミとの報告会（2010 年 1 月 15 日）

2 回生による共同研究「新聞に未来はあるか」の発表をした後、早稲田の水島ゼミ生を交えて同テーマで討論を行った。

朝鮮大学では、浅野ゼミ 3 回生の共同研究「北東アジアについての日本のマスメディアの報道～日本メディアによる朝鮮報道と権力の関係を中心に～」について報告した。報告会には朝鮮大学の宋ゼミ生約 20 人が参加したほか、朝大学生と交流を続けている東京国際大学、慶應義塾大学、早稲田大学、多摩美術大学ら大学生で組織する「日朝学生ネット」のメンバー数人も参加した。発表後、参加した学生同士で 3 つに分かれてグループディスカッションを行った。共同研究に関連した意見交換から互いの学校生活などの話まで幅広い話題で内容の濃い討論となった。

③ <沖縄合宿>琉球大学法文学部・我部政明ゼミ、沖縄国際大学総合文化学部・石川朋子ゼミとの討論会（2010 年 6 月 12 日～15 日）

琉球大学では、まず浅野ゼミ 3 回生が 1 回生当時に研究していた「沖縄返還密約とメディア」について報告を行い、続いて 4 回生が共同研究「北東アジアについての日本メディアの報道」を報告した。その後の討論では、日米同盟や米軍基地の負担について議論が交わされた。

沖縄国際大学では、石川ゼミ 1 期生から共同研究「米軍基地による北谷町砂辺の影響」の報告があり、続いて 2 期生による「宜野湾・沖縄国際大学米軍ヘリコプター墜落事件 5 年、石川・宮森小学校米軍ジェット機墜落事件 50 年」をテーマとした研究報告が行われた。浅野ゼミからは、4 回生が共同研究の内容を発表した。討論では、「抑止力」の問題、沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落した「事件」などに関して議論された。その後、石原昌家名誉教授から、普天間基地移転をめぐる本土メディアへの憤り、「構造的暴力」としての米兵の犯罪などについて話していただいた。

討論会を通して、本土からは「見えない」米軍基地の実情、「聞こえない」基地の存在に苦しむ人々の声を実際に知る機会となった。

④ 浅野健一ゼミ3回生・4回生・大学院生による卒論合宿

4回生が20名近くの前で一人一人の卒論を発表。発表後、参加者から指摘をもらった。4回生は院生・学部生の前での発表を経験することにより、レジュメの準備や話の組み立て方、さらには持ち時間の中で論理的かつ明確な説明をする技術を養った。また2回・3回生は、先輩の発表を聞くことによって、来年に向けて卒業論文の書き方、発表の仕方のイメージを掴んだ。

⑤ 後輩への指導

浅野ゼミでは、上記の活動の他にも、米国人犯罪被害者らを招いたシンポジウム、冤罪とメディアや沖縄密約問題などをテーマにしたイベントの開催なども実施し、先輩から後輩へ様々な形で指導を行ってきた。大学院生はアカデミックアドバイザーとして4回生の卒業論文指導や共同研究について学術的な面からの指導を行い、4回生は学生チューターとして、3回生にゼミへの取り組み方や共同研究の進め方について、経験者という立場から指導を行った。

<教育 GP における成果>

教育 GP の活動を通して得られた成果は、以下のとおりである。

① 他学生との意見交換を通じての論理的思考能力の育成

他大学の教授や学生たちと交流を通じて、相手の主張を理解し、自らの価値観の中に反映させると同時に、自らの考えを論理的かつ明確に相手へ伝える能力を養った。

② 現場を知る

沖縄に実際に赴き、その現場を体感したことによって、メディアなどで伝えられなかった事実を知ることができたと同時に、本土の大手メディアが抱える問題性も浮き彫りとなった。また、沖縄で得た体験から、自分が何を考え、今後社会とどう関わっていくのかについて考える契機となった。

③ 学生主体の出版物の編集あるいはホームページの作成

出版物やホームページの作成を通して、学び得た知見を広く内外に発信してきた。そしてこの作業を、4回生中心に1～3回生と協力しながらゼミ全体で行うことで、一つのものを作り上げる困難さと同時に完成した時の喜びも知ることとなった。

④ 学年を超えたゼミ生同士の繋がりが深まる

服部ゼミとの討論会では、事前に3回生・4回生同士で討論会の準備に取り組み、本番は学年を超えた一つのチームとして討論会に臨んだ。また沖縄合宿では現地に行く前に、沖縄基地問題などについての勉強会をみなで行い、合宿中は一つのテーマを基に、みなで沖縄の現状・未来について考えた。

⑤ 経験や知識の共有

こうした活動を毎年度継続できたのは、4回生が教育 GP を通じて得た経験や知識（編集技術も含めて）を他学年の学生にきちんと共有したことが大きい。なぜならば、それによって、多くの学生がこのプログラムの魅力を感じ、その結果、次年度も「是非活動したい」と希望するようになったからである。

参考 URL

<同志社大学社会学部教育 GP の HP> <http://ssgp.doshisha.ac.jp/index.php>

2009-2011年度における
浅野健一ゼミ
教育GP活動報告

他大学ゼミとの交流会

立教大学社会学部・服部孝章ゼミ

2009年1月26日



●共同研究発表

●討論会

(大学生の大麻所持事件
や力士による暴行事件な
ど4つの事件報道の問題
を検証、討論)

東京GP合宿(2009年1月)

- 早稲田大学法学部 水島朝穂ゼミ(法制論、平和論)
- 朝鮮大学校国際関係学部 宋修日ゼミ(国際関係)



グループ・ディスカッション



水島ゼミ



朝鮮大学内見学

- 共同研究発表、質疑応答
- 朝鮮大学校見学
- 交流会